

File
09

有限会社九州ヘラルド

- 所在地: 大分市上戸次利光3831
- T E L: 097-597-0531
- 事業内容: カーペット・じゅうたん・ブラインド・椅子・ソファー・クリーニング
- 雇用人数: 健常者2人 障がい者6人

- 沿革: 1970年 創業
1980年 法人登記
2000年 宮崎営業所開設



独自のタッチパネルシステムを開発 障がい者が使いやすく、正確性や効率も向上

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

知的障がい者6人を正社員として雇用。年代は20歳代2人、30歳代2人、50歳代2人(うち女性1人、20歳代)。職業適性の重度判定者が1人。最長で27年勤務している。

2人は自宅から、4人はグループホームから、それぞれ通勤している。

■ どんな仕事をしているか

じゅうたん、椅子、ブラインドなどのクリーニング業務全般。タッチパネル式のパソコンを操作して、不良箇所など検査内容を登録したり、専用の機械を操作しながらの水洗い作業や、大型機械を使った乾燥の作業、出来上がった預かり品を配送用の棚に分別するなど、障がい者で全体の作業の約8割を担当。

各事業所などに出張して、じゅうたんなどのクリーニング作業もしている。



機械の操作も障がい者自身で

障がい者を雇用して良かった点

言ったことを素直に受け入れ、こつこつと働き、手抜きをしない点。

「課題」・言葉の説明が伝わりにくい。

- ・障がい者が自身の思いを表現することが少ない。
- ・信頼関係を作るのに時間がかかる。

「解決策」・体で覚えるまで時間をかけて指導し、支援者らが「待つ姿勢」で障がい者に接すること。

コメント

■ 障がい者雇用担当者

総務 小野 聖子さん

無遅刻、無欠勤で大変まじめな姿勢に感心します。

会社では15年間、障がい者に接していますが、言葉で指示する難しさを感じています。状況に応じて、細かく的確な指示を出す必要があり、伝わりやすい指示を工夫しています。



■ 現職障がい者

主任 吉野 亮二さん

工場の中では一番のベテラン。新入社員に仕事を教える役割も担っている。「仕事の中では洗いが一番好きです」と話す。「工場内だけでなく、出張にも行きます」。



■ 現職障がい者

穴見 洋子さん

高校を卒業後、すぐ入社して勤続10年。「頼りになる」と評価も高く、穴見さんは「会社のみんなと友だちになりました」と笑顔。



プロセス

STEP 1

■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

同社会長の知人が知的障がい者施設を経営しており、1985年ごろから入所者をアルバイトとして雇う機会があった。

半年ほどのアルバイト期間を通して、まじめな姿勢と作業に必要な体力が十分にあることから、正社員として採用を始めた。



じゅうたんのクリーニングの作業

STEP 2

■ どんな問題点にぶつかったか

クリーニング前に預かり品をチェックする検査伝票が手書きだったため、文字を書くことが苦手な障がい者にとって難しい作業だった。また、総務で伝票の内容が判別できないこともあった。障がい者が専用の機械操作をするため、機械の改良が必要になった。

STEP 3

■ それに対してどんな改善策を取り、工夫をしてきたか

①タッチパネルシステムと絵文字の導入

昨年4月、伝票をコンピューター化し、タッチパネルシステムを導入。システム開発業者の協力のもと、障がい者が手書きで記入した600パターンもの不良箇所の表現から、障がい者が選択や判断に迷わないよう、ほつれ、やぶれなど代表的な20パターンに絞り込んだ。

また、文字と一緒に写真を添付すると、色や柄など関係ない情報から注意力が低下する可能性を考え、分かりやすい絵文字を考案した。

手順も簡略化し、預かり品に個別に添付したバーコードをコンピューターに読み込んでから、パソコン画面に表示された不良状態の絵文字を選択、次に画面の四角形で不良箇所の位置をタッチすれば、検査内容が登録できる。

障がい者にとっては作業ストレスが軽減され、総務担当者による伝票の確認作業もなくなり、効率化、正確化が図れた。

②機械の改良

作業の途中の移動を少なくするため、機械を自社で改良し、作業半径を広げた。大型乾燥機は必要でないボタンは触らないように隠し、間違った操作をしないように工夫した。

社内環境

全員が個人のバーコードカードを持ち、作業担当者として検査伝票に登録し、責任を持って仕事をしている。

また、「障がい者が使いやすい」という視点で開発した、タッチパネルシステムを有効に活用している。



タッチパネルで入力も簡単